



穴をあけて綴じてください

疫病早期終息祈願

世界的に疫病の流行が続いております。このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。

また、罹患された方々およびそのご家族、関係者の皆様、感染拡大により日常生活に影響を受けているすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。さらに感染のリスクを負いながら、医療に従事されている方々にも心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の1日も早い終息をお祈り申し上げます。



神職三人で執り行われた今年の例大祭

「ご祭事の参加制限と中止

6月3日六郷神社例大祭は、感染拡大防止の為、禰宜様をはじめ神職3名により厳かに執り行われ、氏子地域の安寧およびコロナ禍退散を祈願されました。

また予定しておりました「茅の輪くぐり」、「祭礼」をとりやめ、「神輿渡御」、「子供神獅子舞（大田区無形民俗文化財）」も開催できない年となつてしまいました。



(撮影・金子義裕)

蘇民将来の子孫

蘇民将来は疫病除けの伝承です。古く奈良時代の史料にその話が見えます。

昔、北海の武塔の神が南海の女神に求婚に出かけ、途中で日が暮れたので、将来という兄弟に宿を乞うと、裕福な弟（巨旦将来）には拒否され、貧しい兄の蘇民将来には優遇されました。

後年、武塔の神は御礼として、蘇民将来に「疫病があれば、蘇民将来の子孫と言ひ、茅の輪を腰に付けた人は免れる」と、茅の輪の法を教えました。

いわゆる「茅の輪くぐり」の神事は、この伝承に基づいています。

会員総会のご案内

会則にございます本年度の会員総会は、新型コロナウイルス禍により、中止にさせていただきます。①令和元年度収支決算、会務・事務報告、②令和2年度収支予算案・事業計画について、常任理事で精査致しましたことを報告申し上げます。誠に恐縮ながら、確認・承認いただけると幸いです。よろしく願います。

崇敬会大祭について

崇敬会は平成元年11月3日に発足し、毎年その日に会員相互の親睦を図る行事を行ってきました。残念ながら今年は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、役員数名の参加により、会員家族みなさまの健康祈願および、ご隆昌の祈願を執り行なう形とさせていただきます。

恒例でございました献茶式および野点の茶会、植樹祭などもとりやめに致します。

神社を中心とした地域の繁栄を願う会として、朔日詣りや有名神社参拝旅行などで改めて交流できる日を心より楽しみにしております。

令和元年度 決算報告書

六郷神社崇敬会 令和元年度 決算報告書
(平成31年4月1日より令和2年3月31日まで)

(1) 収入の部(円)	予算額	決算額
個人会費	960,000	909,000
法人会費	200,000	200,000
雑収入	140,000	186,142
前期繰越金	127,216	127,216
合計	1,427,216	1,422,358

(2) 支出の部(円)	予算額	決算額
協賛金	600,000	557,357
会報発行費 (第60, 61号)	170,000	155,000
事務費	20,000	3,498
通信費	120,000	70,836
会議費	30,000	24,031
郵便振替払込料	25,000	32,971
消耗品費	1,000	0
渉外費	40,000	0
催事費	380,000	307,153
雑費	1,000	704
予備費	39,216	0
備品費	1,000	0
次期繰越金		270,808
合計	1,427,216	1,422,358

(3) 次期繰越金内訳(円)	
現金	230,705
郵便振替貯金	33,240
城南信用金庫普通預金	6,863
合計	270,808

(4) 40周年事業準備金(円)	
芝信用金庫普通預金	600,261
利息	2
合計	600,263

(5) 定期預金(円)	
城南信用金庫定期預金①	700,615
利息	60
城南信用金庫定期預金②	1,000,360
利息	80
合計	1,701,115

令和2年7月18日
上記のとおり、報告いたします。

会長 増淵國昭 印

監査報告書

監査の結果、令和元年度決算報告書は、
正確であることを認めます。

令和2年7月18日

監事 吉野鷹夫 印
監事 森 明久 印

令和2年度 収支予算(案)

六郷神社崇敬会
令和2年度 収支予算(案)
(令和2年4月1日より令和3年3月31日まで)

(1) 収入の部(円)	
個人会費	900,000
法人会費	200,000
雑収入	150,000
前期繰越金	270,808
合計	1,520,808

(2) 支出の部(円)	
協賛金	600,000
会報発行費 (第62, 63号)	160,000
事務費	1,000
通信費	100,000
会議費	30,000
郵便振替払込料	35,000
消耗品費	1,000
渉外費	40,000
催事費	380,000
雑費	1,000
予備費	171,808
備品費	1,000
合計	1,520,808

◆ついでに早朝まいりと講話者

平成31年4月	令和元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年2月
講話者	講話者	講話者	講話者	講話者	講話者	講話者	講話者	講話者	講話者
江部謙五	石渡義仁	長谷川靖	鈴木祐一	力石富司	杉山恵一	吉田恒男	秋山光明	伊佐治剛	金子義裕

◆令和2年度会費納入のお願い

年会費(令和2年4月1日より令和3年3月31日までの分)未納の方は、お手数でも同封の振替用紙でお納めください。社務所でも受け付けております。なお、すでにお納めの方は、失礼をご容赦ください。

崇敬会 第11期役員

令和2年7月18日現在

穴をあけて綴じてください

宮司

鈴木 武司

禰宜

鈴木 祐一

顧問（神社責任役員）

江部 謙五

石渡 建司

顧問（二代会長）

喜多 絹子

参与

鈴木 基晴

会長

増渕 國昭

副会長

岩崎 勝

吉田 恒男

本多 薫

常任理事（五十音順）

石渡 成弘

石渡 治美

石渡 義仁

一色 弘三

今井 哲夫

尾花 信行

蛸崎 田鶴男

金子 義裕

上川 一枝

川田 知希

桑原 研次

島田 敦史

杉山 恵一

瀧 秀敏

坪井 徹夫

鶴川 屋實

出川 恭央

飛田 弓子

野村 和子

長谷川 敏子

長谷川 靖

平野 卓治

村上 鈴江

山中 明

吉田 エミ子

理事（五十音順）

足利 好枝

今村 将則

小沼 秋雄

小野 暁子

小原 信子

金輪 雅夫

代田 重樹

高橋 好行

坂東 栄三輔

前嶋 さなえ

増渕 三枝子

監事

森 明久

吉野 鷹夫

確認と承認のお願い

会則10条に「理事、監事は総会において選出し、会長、副会長、常任理事は理事会において選出する」、また13条に「役員及び顧問、参与の任期は三年とする」との規定があります。

本年度は役員改選の年でございます。しかしながら、会員総会が、新型コロナウイルス禍により、中止になりました。誠に恐縮ながら、前期までのメンバーに、氏子青年会より島田氏、川田氏を常任理事に加えた形で、確認と承認をいただけますと幸いです。

会の目的である「六郷神社への敬神の念を深め、神社の興隆と地域文化の向上に寄与し、かつ会員相互の親睦を図ること」を今一度心にとめ、努力していく次第でございます。

会員のみなさまには、より一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

追悼・森田賢治初代会長



六郷神社崇敬会創立(平成元年11月3日)以来20年間の長きにわたり、会長として勤められ、崇敬会の礎を造り、その後顧問として10年間崇敬会を支えてくださった

森田賢治氏(享年96歳)が、令和元年11月3日創立30周年式典の日に永眠されました。

明治監査会会長、大田区監査役、そして、日本大学理事長として多忙を極めながらも、毎月の常任理事会、朔日早朝まいり、その他の行事にもご指導、ご活躍をくださいました。

いつでも誰にでも笑顔で接し優しく大きな心で崇敬者を導いてくださいました。

ここに謹んで生前のご尽力に深く感謝し、御霊のご平安をお祈り申し上げます。

◆六郷神社本殿①

神社には、本殿や拝殿、門、鳥居、手水舎、社務所など様々な種類の建築物があります。中心となるのが本殿で、

「神の専有空間を内包する建築で、そこに神が常在するとされているもの」(三浦正幸

『神社の本殿 建築にみる神の空間』、吉川弘文館、

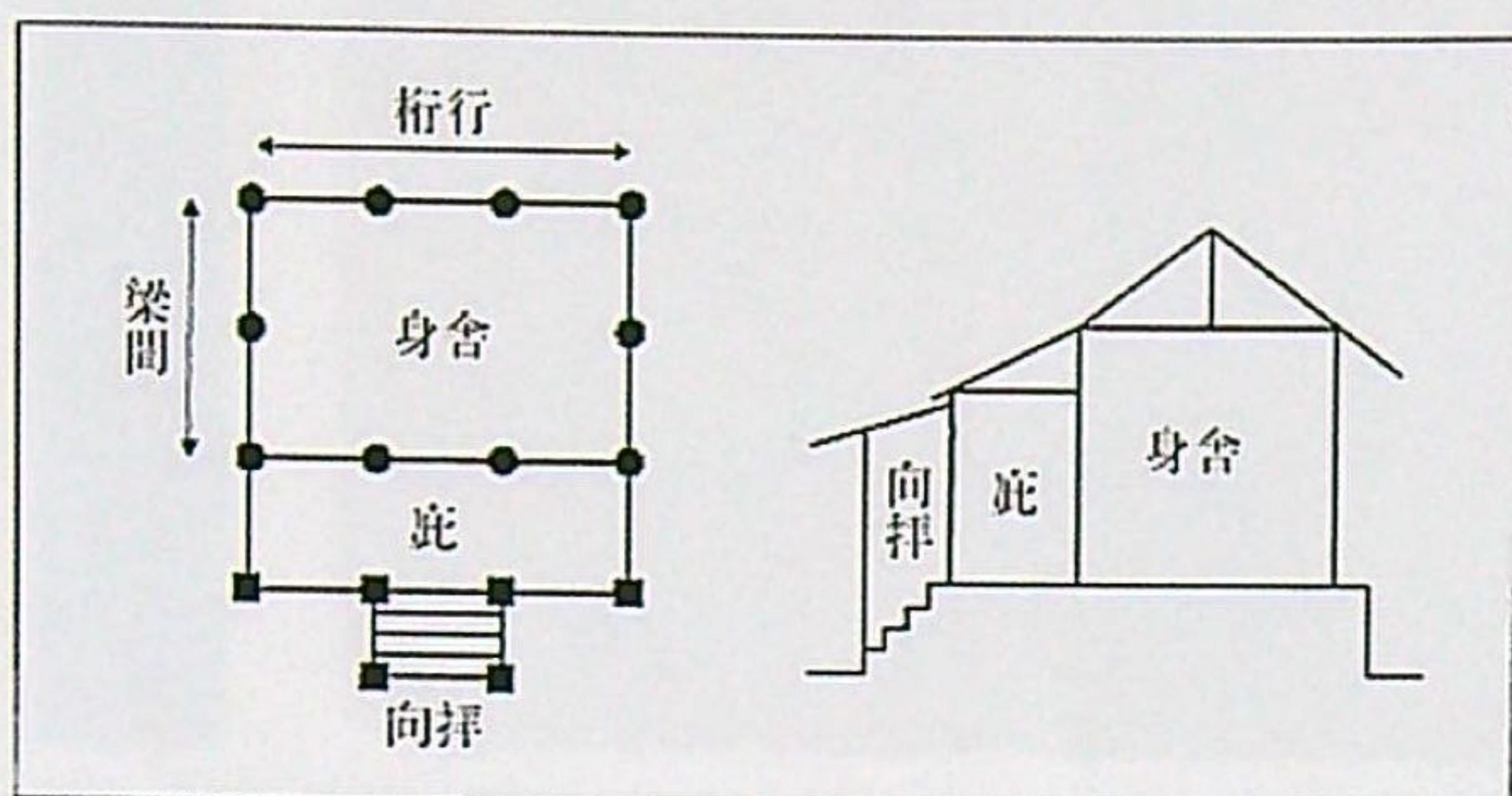
2013年)とされています。

それでは六郷神社の本殿はどのような構造をとっているのでしょうか。その構造を見る前に、神社本殿に関する基本的な事項を確認しておきます。

本殿の規模は、正面の柱間(はしらま)の数で表します。すなわち、柱間が一つだけの本殿は一間(いっけん)社、二つのものは二間社といった具合です。「間」は実際の寸法(六尺)ではありません。本殿は

奇数間数が一般的ですが、もちろん例外もあります。柱は円柱が基本です。円柱は正式な柱、角柱は略式な柱とされています。いびつな原木から二氣に円柱を作ることとはできず、角柱から隅を何回か削って円柱を作ることになるからです。

本殿の建築構造は身舎(もや)と庇(ひさし)、向拝(こへうはい)から構成されます。

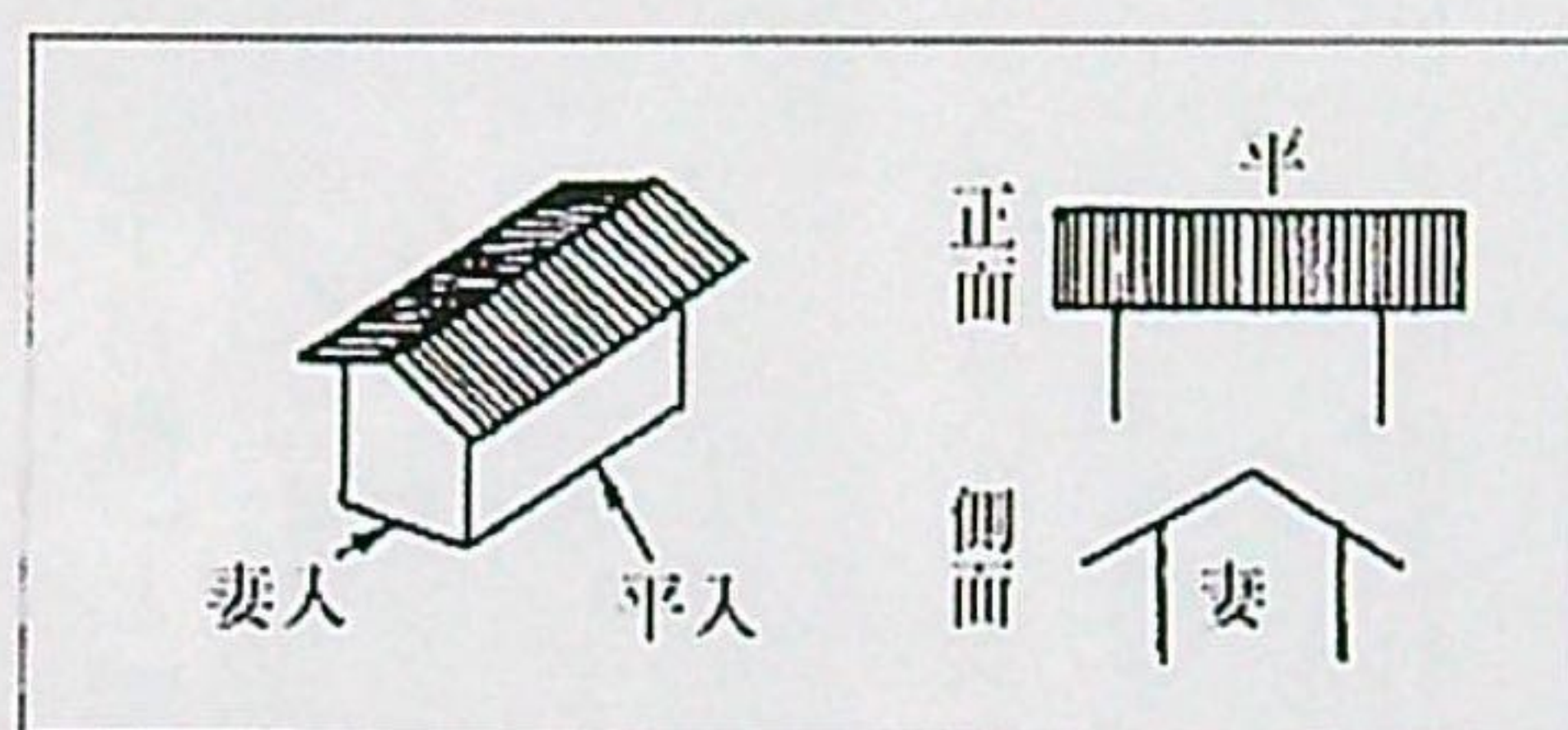


身舎・庇・向拝

(佐藤信編『新版 図説歴史散歩事典』、山川出版社、2019年より)

身舎は本体で主たる屋根をかける部分、庇は身舎の外側に差しかける部分、向拝は正面の階段上部の屋根がかかる部分です。

また本殿の系統には二つの系統があります。



切妻造の形式

一つは、屋根の棟(むね)に直行する面(妻)を正面とする妻入の系統です。出雲大社に代表される大社造、春日大社に代表される春日造などです。もう一つは、屋根の棟に平

行する面(平)を正面とする平入の系統です。伊勢神宮に代表される神明造、賀茂別雷神社に代表される流造などです。なお通用口が妻にもうけられていようが、建物の正面が平にあれば、平入です。

こうした本殿の内部には、基本的には神職といえども参入は許されません。神の専有空間である「内陣」が設けられ、御神体が置かれます。「内陣」は極めて簡素に作られていることが多く、手抜きではなく、伝統文化の一つの特質とみられています。

次回、六郷神社の本殿はどのような構造をもっているのかをみていきます。

(平野卓治記)

アマビエ信仰

肥後国海中に毎夜光るものあり役人等
召るべしとの如く現れ海中に住アマビエと
者や為年より六十年も法を著し候
病流行ありし時官人より召し出されしと
中々海中へ入り石を写し役人より江老
中より出也

弘化三年四月中



『肥後国海中の怪(アマビエの図)』
(京都大学附属図書館蔵)

弘化3(1846)年、肥後国(熊本県)の海から毎晩、光り物が出る。役人が行ってみると海中から姿を現し、「私は海中に住むアマビエという者だ。今年から6年間、諸国は豊作になる。ただし、病がはやる。すぐにでも私の姿を写して人々に見せなさい」と告げた。

アマビエは、「予言獣」と呼ばれ、現存する資料は、上記かわら版しかありません。江戸末期にもブームがあり、外国船の来航や地震、飢饉(ききん)が相次ぎ、コレラも流行する時期でありました。

対処のしようがない不安を絵にすることで、少し気が楽になる効果があるのかもしれませんが、多くの人によって描かれSNSに投稿されています。



アジサイに覆われた手水舎
(鶴岡八幡宮・鎌倉市)

◆ついたち早朝まいり

毎月ついたち朝7時に、神前にて会員みなさまの家内安全を祈願する昇殿参拝と、会員有志による講話をしております。

残念ながら今年は3月より、感染防止のため、中止しています。ただそのような中でも、毎月の祈願は続けております。

会員の方の誕生月には、お守りとお供物、法人の方には特別な神札を用意しています。

ご足労いただきますが、引き替えのはがきを社務所にお持ちいただき、お受け取りいただけると幸いです。

はやく早朝まいりを再開し、皆様と一緒に参拝できることを心より願っております。

発行 六郷神社崇敬会

〒一四四・〇〇四六

大田区東六郷三・十一・十八

六郷神社社務所内

電話〇三・三七三二・二八八九

振替〇〇一九〇・六・一二三五五三

監修 平野卓治

編集 吉田恒男、飛田弓子、

野村和子、石渡義仁、

長谷川靖